

「運転中 スマホ操作は 絶対やめて！危険は検索できません」平成29年度最優秀交通安全標語

先月、秋の交通安全キャンペーンを実施しました。交通安全運動キャンペーン月間を無事故で終えることができました。ご協力有難うございました。

さて、法令で定められているとおりに、ハイビームで走行していれば防げたのではないか、という交通事故は少なくないようです。先日も、警察庁の調査では、夜間に歩行者が道路横断中に車にはねられて死亡した事故625件(1年間、全国)のうち、実に96%の車のライトがロービームだったと新聞で報道されていました。

そこで今月は交通安全キャンペーンのアンケートでも記載の要望もありました「夜間走行時のヘッドライトはハイビームが基本」について取り上げてみました。

I. 夜間走行時のヘッドライトはハイビームが基本？

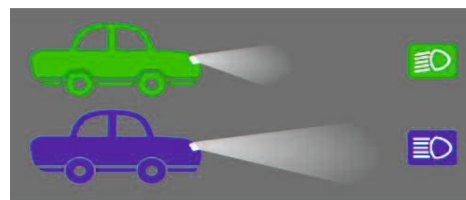
1. 夜間の走行では、ヘッドライトはハイビーム、ロービーム？

ヘッドライトには、通常、ロービーム、ハイビームが備えられています。道路運送車両法等では、ロービームの正式名称は「すれ違い用前照灯」、ハイビームは「走行用前照灯」とされ、その照射距離は、ロービームは前方40m、ハイビームがその倍以上の前方100m先を照らすことができるものと定められており、その使用方法として、対向車や前走車が存在する場合には、ロービームを使用することとされています。また、歩行者や自転車利用者が存在する場合でも、ハイビームで幻惑させて転倒する危険性もありますので、慎重な使用が求められます。ハイビームにはロービームのような状況を限定した使用規定は存在しませんが、その照射範囲の広さや走行用前照灯という名称等からも通常の走行を想定したライトと考えてよいでしょう。

一方、夜間の運転において、街灯や建物の明かりがある都市部では、ロービームの使用によって十分に安全が確保されていることが多いのも事実ですが、それが常態化し、ハイビームが必要とされる暗い郊外や地方の道でもロービームのまま運転しているドライバーも見うけられます。

道路交通法によって安全運転確保義務が課されているドライバーにとって、ロービームの使用を明確に規定されているケースを除けば、夜間の運転では、速度の抑制を図るとともに、ハイ・ローのライト切り替えを積極的に活用し、事故を防止することが求められています。

なお、近年ヘッドライト(光源)が明るくなってきており、ドライバーには見えやすくなっている半面、眩しさも増加しています。ハイビームの消し忘れや自分勝手なハイビーム活用は、ドライバー間によるトラブルのもととなる危険性や歩行者・自転車利用者が幻惑させてしまう危険性を含んでいますので、慎重な使用が求められます。



2. すれ違い用前照灯(ロービーム)の更なる活用法

道路交通法第52条第2項では、夜間に他車両と行き違うときや前走車の直後を走る場合には、ヘッドライトの消灯あるいは減光する等灯火を操作しなければならないと定めています。この灯火の減光等の灯火操作に当たるものが『すれ違い用前照灯(ロービーム)』への切り替えとなります。このようにロービームは市街地など交通量が多い道路において使用するほかにも、悪天候にも活用することができます。視界が悪化する雨天時には日中であっても点灯し、対向車に自車の存在を知らせましょう。また霧では、ライトの光が霧の粒子に乱反射し、遠くまで届かないため、ハイビームではかえって視界が遮られてしまいます。このようなときには、ロービームで霧の粒子が薄い手前を照らし、センターラインや前走車のテールランプを目安に速度を抑えて走るとよいでしょう。

また、時間帯別死亡事故データ(警察庁統計)では、16時～20時の発生が他の時間帯と比べて突出して多くなっていますので、日の入り30分前の早期点灯で他者に見せるためのライトオンを行ないましょう。



3. 急速に進むヘッドライトの技術開発

視界が悪くなる夜間では、様々な統計において事故発生率が高まることが判っています。その対策として、より明るく、遠くまで、また、広範囲にヘッドライトの光をあてることが効果的です。最近では、ハイビームを自動的に調整して夜間の視界を最大限に確保する次世代型ヘッドライトが登場しています。特徴は、明るさセンサーや光学式カメラなど、さまざまなセンサーを連動させることで車両と周囲の状況を検知し、常時ハイビームのままでも他車を眩惑せずに走行できることです。基本的な仕組みとしては、ハイビームで走行中に対向車が来ると瞬時にロービームへと自動的に切り替わるものと、ハイビームのまま対向車や先行車の部分だけを遮光して眩惑しないよう制御する装置があります。さらにはカメラで対向車や前走車だけでなく歩行者なども検知し、複数の配光を組み合わせて眩惑する部分の光をカットし、その周囲をハイビームで照射するという画期的な技術も登場しています。

ハイビームの欠点を緻密な配光制御で克服したヘッドライトは、今はまだ一部の車種を中心に搭載が始まったばかりですが、数多くの安全技術と同じく、やがて一般的な装備として普及していくと予想されます。

Ⅱ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	自動車で帰宅途中
どこで	一般道路で
何をしている時に	車で走行している時、前方に原付バイクが走行していたので原付の後方を走行していた
どうなった	原付バイクが急に方向指示器も出さずに左折した為、追突しそうになった

Ⅲ. 今月のスローガン (企業開発センター交通問題研究室)

ベルトを締め

心引き締め 安全運転